

令和5年度 学校自己評価一覧

部名	令和4年度振り返り・令和5年度への課題	令和5年度重点目標	令和5年度評価項目（評価基準）
教務	可能な限り生徒の希望や進路に沿った群編成を作成することができた。生徒の希望に添えない場合は、生徒の要望や希望進路を再確認した上で、調整を行うことができた。また、シラバスの様式を改良し、学習評価についてより具体的に記載することにした。令和5年度入学生についても同様に進めていきたい。	生徒が希望する進路に応じた選択科目群の編成 令和5年度入学生の新教育課程に基づいた群の編成	・生徒の希望する進路を意識した教育課程や選択科目群の編成表を作成する。 ・令和5年度入学生の教育課程において、可能な限り生徒が希望する履修計画ができるように群編成を行う。
	学校行事は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも各職員の協力により円滑に運営することができた。また、行事予定もHP等で周知することができた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、8月に学校説明会を実施し、受検を検討している中学生にスライドや動画を使って本校の教育方針や特色を伝えることができた。公開授業は中止としたが、令和5年度は実施し、保護者や中学生、地域の方々に本校の生徒の様子を見ていただけるようにしたい。	特色ある教育活動・学校行事の実践および広報	・学校の教育活動や情報、学校行事を生徒や保護者の皆さんに適宜案内・周知する。保護者アンケート質問8，13の回答「わからない」を10%台に減らすのを目標とする。（R4年度は26, 4%, 29. 1%） ・学校評価やアンケートでの評価や具体的な意見を参考にしてPDCAを実践する。特にアンケート回収率を80％以上を目指す。（R4生徒66%, 教員71%, 保護者48%） ・受検を検討している中学生や保護者の皆さんに学校の教育方針や学校の様子を伝える。
教育研究	本年度自己教育力支援システムについて全体に確認することができた。生徒も自己教育力の重要度について理解できている。しかしそれを意識した行動を日々とれているかという点疑問が残る。今年度、現2・3年生が昨年度1・2年生の2学期末の平均ポイントを比較してみた。昨年度67. 1ポイントに対し、今年度は60. 8ポイントと大きく6. 3ポイント下がっている。1年生→2年生は8. 3、2年生→3年生は4. 35ポイント減であった。2学期に大きくポイントを落とす傾向がうかがえる。2学期以降のポイントについて再確認する重要性を感じた。	1人1台端末の利活用状況の向上	1学期の利活用状況を基準とし、2・3学期の利活用を向上させる。
	3年ぶりに1年生保護者に向けての科目選択保護者説明会を実施することができたなど、保護者の方々により詳しく説明する機会をもつことができた。また感染症禍で準備・精選された説明資料も活用し、よりきめ細やかな科目選択の指導を行うことができたと考える。先生方への説明も昨年同様詳しく行うことができた。	進路や適性に合った科目選択の指導	・進路や適性に合った選択ができるよう、ガイダンス等を充実させる。
総務	行事が中止となったものがあるが、実施されたものについては記録できた。備品・清掃用具等については、適正な管理ができた。	教育活動の円滑化	・各行事毎の記録写真を確実に残す。 ・防災訓練における避難時間の短縮をはかる。 ・机、椅子、ロッカー、掃除用具を適正に管理する。
	新型コロナウイルス感染症のため、多くの行事が中止となった。評議員会出席率は85%で、PTA総会では書面での審議となった。「ひまわり」第6号を発刊した。来年度から廃止することを決定した。	保護者や同窓生との連携強化	・行事や講演会への参加を通して、PTA活動の充実をはかる。 ・同窓会役員会出席生徒を3年生から2名決定する。 ・ホームページの充実をはかる。
進路指導	3年次生への就職指導については、就職希望者が昨年度より増加した一方で、JSTの勤務日の減少という厳しい状況となった。個人面談の回数は減らさざるをえなかったが、分野別説明会を実施し、就職希望者の意向を確認する機会をもった。総合学科には、1年次生に進学・就職の説明会を行った。2年次生にも今年度中に団からの要望を受けた内容に即して説明会を行う予定である。	進路意識の向上と適切な進路選択に向けた取組み（特に早めの就職指導）	・個別面談を実施する。 ・産社や探究の内容を踏まえ、学年団と連携する。 ・進路情報を提供する。
	進学希望者の中でも基礎学力を向上させて受験する生徒が増加するように、様々な働きかけができればよかった。第3回校内学力テストについては、日程の検討課題があったが、冬季休業中課題との関連が薄くならないような工夫ができればと思っている。	基礎学力の向上に向けた取組み	・学力テスト（校内実力テスト、校外テスト、漢字テスト等）を計画的に実施する。 ・生徒の学力情報を共有する。
生徒指導	遅刻数は11月終了時点で911件となり、大幅な遅刻増加となっている。不登校傾向の生徒増加、就寝時間の遅れ等、不規則な日常生活が原因とみられる。生徒への継続的な指導、更なる段階的な指導、遅刻数目標の変更を考えなくてはならない。髪の色、加工に関しても、一定人数の加工、染色が見られる。継続して指導の必要性を感じる。どちらの問題も、家庭との連携も図りながら、粘り強く取り組んでいく必要がある。	遅刻・欠席、服装違反の減少	・特に遅刻に注目し、年間1000件以下にする。 ・特に髪の色、加工している生徒の数を減少させる。
	1月末において、9件の報告がある。本校生徒が自転車乗車中の事故に関して、警察への連絡がないため、後で連絡がある場合が見受けられる。事故にあった際の対処方法を合わせて指導する必要がある。	交通事故・違反の減少	・生徒の交通事故を年間で10件以下にする。
	各担任、各団長先生を中心に、早期に問題を把握し、生徒とのコミュニケーションを取りながら問題解決に向かって取り組めた。	安心・安全な学校生活の確保	・学校生活アンケートをもとに、いじめ等気になる生徒へ対応する。

部名		令和4年度振り返り・令和5年度への課題	令和5年度重点目標	令和5年度評価項目（評価基準）
健康推進		・クラス担任やＳＣ・ＳＳＷ等の面談を継続していく。 ・個々のケースが多様化し各生徒に合った指導を有識者と考慮や検討していきたい。 ・他の会や部署との連携を充実させていきたい。	生徒の悩みに向き合い、未来に進むための能力向上への協力と指導	・学校職員やＳＣ（スクールカウンセラー）等の面談を実施する。 ・ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）等の面談を実施する。 ・ケース会など生徒へのサポート体制の検討立案を行う。 ・生活アンケートなど実態把握からの指導を行う。
		・校内巡回やアンケート等を今後も実施することで本校に必要な物品やシステムを検討していきたい。 ・令和４年度は、バリアフリー化や夜間照明などの環境整備を行った。今後も環境整備と感染症対策を継続していきたい。	安全で快適な学校環境整備と最適なシステム運用を検討し実施	・校内巡回やアンケート調査を行う。 ・システムや活用や運用等の改善を行う。 ・感染予防対策の環境整備や立案、指導を行う。
人権・同和教育		２学期ＬＨＲでは授業後のアンケートにおいて「積極的に取り組めたか」の項目に、約98％の生徒が「ＡもしくはＢ評価」と自己評価している。全ての生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫したい。	人権・同和教育ＬＨＲの充実	・生徒自己評価アンケート結果より「積極的に取り組めたか」の項目のＡ＋Ｂ評価、75％以上をめざす。
		「人権通信11号」を発行した。懇談時に学級担任から保護者に「人権通信」と返信用の別紙を手渡したため、保護者から多くのご意見をお寄せいただいた。これらの意見を踏まえて、紙面を充実させたい。	保護者啓発の推進	・「人権通信」等の感想・意見、学校自己評価保護者アンケートの結果から、保護者啓発の成果を分析し評価する。
特別活動		昨年度に比べて、ほぼすべての行事を開催することができたのはとてもよかった。短縮になるやり方を構築できたことで良かった部分もあるので、次年度も引き続き縮小と元通りのバランスを考え、生徒・教員双方に良い開催方法を探していきたい。	生徒会行事の充実	・生徒会行事をしっかりと運営させる。 ・積極的な行動運営や企画をする。
		来年度から中学校は土日の部活動を本格的に地域委託していくので、動向を確認しながら、部活動の活性化につなげていきたい。本校でも外部講師の活用を促進をすることで、教員の負担や、あるいは生徒にとって大切な技術指導につなげていきたい。	部活動の活性化	・大会やコンクールに積極的に参加させる。 ・放課後の部活動指導に取り組む。 ・部活動入部率をあげる。
各学年団	1年	２学期までの出席率は98.4％。懲戒件数は0。人間関係やメンタルの問題で休みがちな生徒や、夜更かしで遅刻が増えた生徒が数名いる。出席率は目標を達成しつつあるが、良好とは言えないだろう。人間関係が難しくなる原因の一つであった携帯電話の使い方については、ずいぶん落ち着いた。整理整頓の習慣については、若干名困難な生徒がいる。いずれの問題も、今後も丁寧に声掛け、支援が必要である。	生活規律の確立	・欠席、遅刻をなくさせる。（出席率98％以上） ・整理整頓を習慣づけさせる。
		２学期までの自己教育育成支援システムのポイント平均は68.4pと、まずまずの状況である。次年度は部活動や生徒会活動で、しっかり活躍させたい。それらがいない生徒には、クラスでの活動やボランティア活動などをさせていく必要がある。また、基礎学力の向上も不可欠で、学習習慣をつけさせたい。	活動意欲の向上	・部活動や生徒会活動、ボランティア活動に参加させる。
	2年	総合学科：進路希望が決まっていない生徒、決まっても具体的な行動に踏み出せていない生徒が少なくない。進路講話LHR や進路フェスタ等を有効に活用し、指導していきたい。 看護科：臨地実習をとおして、看護への思いをより強く持てるようになったのではと思う。実習での経験を生かして、さらに学習や誠実に取り組む姿勢を身につけさせていきたい。	学習意欲と進路意識の向上	・全員が授業中、積極的に挙手発言やグループワークができるようになり、欠点が学期ごとに減っていく。 ・総合学科全員が、英検など何か資格取得か検定合格を実現し（最低でも漢検）、１月までに受験校（学部）や就職希望業種を決定する。 ・看護科は戴帽式を成功させ、臨地実習に休まず参加する。
		1月23日現在で、携帯電話の使用違反は5件、不注意による（連絡なし）遅刻は347回となった。１、２学期の自己教育力の学年平均は64.3ポイントであった。規則正しい生活をする、当たり前のことを当たり前にするなど、自己を律する力を今後指導していく必要性を強く感じている。	生活規律の確立	・携帯電話使用違反を10回以下に、特に２回以上の指導0を目指す。 ・出席率99％以上、遅刻回数140以下（前年度281の半減）、皆勤賞40名以上（前年度26名）。
	3年	進路指導部と連携した取り組みにより成果をあげた。進学希望者と学校推薦による就職希望者は、ほぼ進路が決定した。	進路希望の実現	・進路決定率100％にする。
		自己教育力育成支援システムの学年平均は、目標を下回った。進路決定後、一部の生徒にやや気持ちの緩みがみられた。	自己教育力の向上	・欠席のべ250日未満。遅刻のべ150回未満。
専攻科看護科		12月実施の学校評価アンケート（生徒）の結果でも、「身だしなみ」の項目で「よくあてはまる」38.5％、「挨拶、時間を守る」の項目で「よくあてはまる」43.6％と、評価基準を下回った。３つの評価項目（評価基準）において、前年度とほぼ同様の結果であり、改善には至らなかった。担任だけではなく、関わった教職員がその場で指導を行い、看護職者をめざす者としての自覚と責任を意識させるよう努めたい。	看護職者をめざす者として常に自覚と責任を持って行動できる態度の育成	①健康の自己管理：出席率平均98％以上 ②家庭学習の習慣化：授業アンケート結果で「予習復習による学習理解」の項目においてA評価が30％を超える ③節度ある言動・態度：学校評価アンケート結果(生徒)で「身だしなみ」と「挨拶、時間を守る」の項目においてA評価が60％を超える